

# 天草誕生のストーリー

## 第4章

### 人の定住と天草諸島の誕生

(地質時代：新生代第四紀)

#### ストーリー 10 有明海と八代海の形成と人の定住

約2万年前(最終氷期)、現在の有明海と八代海周辺の地域は陸地であり、今の秋田や青森のような涼しい気候でした。この頃から天草地域では人が住んでいた証拠である石器などが見つかります。約1万年前になると、地球全体が徐々に温暖化することによって海水面が上がり、有明海と八代海にも海水が浸入し始めます。約5,000年前のいわゆる縄文海進時代には現在よりもっと内陸まで海が広がっていました。その後、海水面が少し低下して、現在の海の水位になりました。



約2万年前の有明海



現在の海の姿

#### ストーリー 11 地下資源の利用 イルカとの共存

18世紀中ごろ、肥前の国藩士松室五郎左衛門が伝えた石工技術により、多くの石工が生まれ、地元の下浦石を利用した石橋が天草の交通の要所に作られていきました。国指定重要文化財の祇園橋は下浦石を利用した建造物の代表例です。また、天草陶石を用いた磁器生産は、内田皿山窯跡や下津深江窯跡などで17世紀中頃に下島北部から西岸域で行われました。豊富な産出量と良質さを兼ね備えた天草陶石は、磁器生産の中心地である佐賀県有田や京都の清水焼にも磁器原料として出荷されるなど日本の産業を支えています。明治時代になると本格的な石炭採掘が行われました。天草地域の石炭の特徴は、全国でも希な無煙炭とよばれる煙が少なく高カロリー熱量を発する石炭にあります。天草炭鉱は1856年に現在の苓北町から熊本へ石炭が積み出された記録が最も古く、最後の坑口が閉鎖する1975年までの約120年間にわたる歴史がありました。そして現在、サンゴが生育する温暖な海と、豊富な魚を求めてイルカが住み着く豊かな自然環境があり、緑豊かな島々に人々の文化が栄えています。

## 第4章に関連する「見どころ」

### 27 永浦島のハクセンシオマネキ生息地

所在地 上天草市松島町



松島町の永浦島周辺は日本有数のハクセンシオマネキの生息地。このカニは体長約2cmで、オスは片方に白く大きなハサミを持っています。6月から8月まで干潮時の干潟で大きなハサミを盛んに振るオスの姿を見ることができます。

### 28 千巖山展望所

所在地 上天草市松島町



千巖山の山頂からは大矢野町方面の眺望が開け、天草五橋が一望できる絶好のビュースポット。真っ青な海に約5,000万年前の白い白岳層から成る大小の島々が浮かぶ、風光明媚な多島海の景観が楽しめます。

### 31 高舞登山展望所

所在地 上天草市松島町



国道から高舞登山展望所までの道路脇では、白亜紀と古第三紀の両方の地層が観察できます。展望所では、松島から大矢野にかけて、天草五橋東側の多島海の景観が一望できます。大矢野にあるかつて活動した火山(飛岳、柴尾山、大矢野岳など)を確認できるスポットです。

### 32 白嶽湿地

所在地 上天草市姫戸町



白嶽と鋸岳に挟まれた標高280mの谷地にできた湿地。湿地周辺には観察道が整備され、日本一小さいハッチョウトンボや日本一大きなオニヤンマなど約50種のトンボと、南方系シダ植物ヒモヅルなどの希少植物を観察することができます。

### 37 ミナミハンドウイルカの生息海域

所在地 天草市五和町の沖



天草下島と島原半島の間にある早崎瀬戸に生息するミナミハンドウイルカ。約200頭が、海底地形が複雑なこの海域に住み着いています。海峡と生態系について学べるイルカウォッチングは、天草の観光として大人気です。

### 38 富岡半島の砂州と砂嘴

所在地 天草郡苓北町



富岡半島は、天草下島の西岸を北上する沿岸流が運ぶ砂礫によって志岐平野と繋がった陸繋島です。繋がった後は、半島を回り込む沿岸流により、東側に礫が堆積し、鳥のくちばしの様な形をした砂嘴とよばれる地形となりました。

### 40 灰窯跡

所在地 上天草市姫戸町



生石灰をつくる窯の産業遺構です。生石灰は、石灰岩を窯に石炭と共に入れ、高温で焼いたものです。姫戸運動広場駐車場付近にある窯跡は、姫戸町に残る灰窯の遺構で最も古いと推測されており、その石垣に姫戸町東岸に露出する変成岩類(結晶片岩)が使われています。

### 42 山口の施無畏橋

所在地 天草市本渡町



1882年に架けられた下浦石を石材とする熊本県指定文化財の石橋です。橋は長さ22.73m、幅3.24mの壁石が薄い単一アーチの眼鏡橋です。橋のたもとに架橋碑が現存しており、貴重な石橋です。

### 43 楠浦の眼鏡橋

所在地 天草市楠浦町



熊本県指定文化財である石橋。1878年に完成したアーチ型の石橋で、長さ26.33m、幅3.05mの優美な姿をしています。この橋には下浦石が用いられ、下浦の石工によってつくられています。

### 27 永浦島のハクセンシオマネキ生息地

所在地 上天草市松島町



松島町の永浦島周辺は日本有数のハクセンシオマネキの生息地。このカニは体長約2cmで、オスは片方に白く大きなハサミを持っています。6月から8月まで干潮時の干潟で大きなハサミを盛んに振るオスの姿を見ることができます。

### 28 千巖山展望所

所在地 上天草市松島町



千巖山の山頂からは大矢野町方面の眺望が開け、天草五橋が一望できる絶好のビュースポット。真っ青な海に約5,000万年前の白い白岳層から成る大小の島々が浮かぶ、風光明媚な多島海の景観が楽しめます。

### 31 高舞登山展望所

所在地 上天草市松島町



国道から高舞登山展望所までの道路脇では、白亜紀と古第三紀の両方の地層が観察できます。展望所では、松島から大矢野にかけて、天草五橋東側の多島海の景観が一望できます。大矢野にあるかつて活動した火山(飛岳、柴尾山、大矢野岳など)を確認できるスポットです。

### 47 棚底の石垣群とコグリ

所在地 天草市倉岳町



この地域の家を取り巻いている防風石垣群は、扇状地を形成する安山岩質の土石を利用したもので、独特の文化的景観を醸し出しています。さらに棚田には「コグリ」と呼ばれる水路が掘られています。

### 50 下田温泉

所在地 天草市天草町



下田温泉は掘削250mのさく泉で、PH.7.84、泉温51.3℃のナトリウム炭酸水素塩・塩化物泉です。温泉の湧出機構は、この地域の断層と地下の地層にある下田背斜とよばれる構造に密接な関係があるようです。温泉発見にまつわる伝承から「白鷺温泉」の別名もあります。

### 51 宮地浦湾の仕切り網

所在地 天草市新和町



大きな干満の差を利用し、湾口の長さ約400mに高さ4mの網を張り、高潮時に湾に入り、干潮時に網の中に閉じ込められた魚を捕獲する伝統漁法の「仕切り網漁」が行われています。